

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800612		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア市川真間グループホーム		
所在地	千葉県市川市真間5-15-13		
自己評価作成日	令和4年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php?action_kouhyou_detail_feature_index=true&jiyosyoCd=1290800612-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令4年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来ることは継続して行えるように、出来ないことは「出来ない」と決めつけるのではなく、もしかしたら出来るかもしれない。と思えばスタッフとともに挑戦できる声掛けや環境を作っていく。
役割として積極的に行動してもらうことで、「世話をされている」から「生活をしている」という思いへ気持ちを変化させる。たとえコップ一個でも、飲み終えたらキッチンへもっていく。その一つで座りきりを防止することを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ヒューマンライフケア市川真間グループホーム」は小規模多機能施設との併設施設であり、地域との繋がりを大切にしたい運営を目指している。今年度はコロナ禍の為、地域交流は見合わせているが、自治会の加入や日頃の散歩時の近隣住民との挨拶や声掛け等を通して地域との関係性を大切にしている。また、週1回、地域の移動販売を利用して、入居者の楽しみを支援している。日々の家事やレクリエーションにおいては、入居者一人ひとりの個性や残存機能を活かした活動を取り入れる等、入居者の生活の活性化に取り組んでいる。内科医による往診・歯科医の往診・訪問看護が定期的に行われており、適切な医療連携体制が整備されている。また、医療機関とは24時間体制で連携しており、急変時・緊急時・重度化・終末期等の状況変化に応じた支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援を目的としてリネンを継続している。事務所、休憩室にリネンを掲示することによりいつでも振り返りが出来るようにしている。	「その人の今までの歴史を大切に、その人らしくいられる処を目指します」という施設理念を掲げている。法人理念・事業所理念・運営方針等を施設内に掲示し、職員全員で共有している。また、新人研修及び現認研修で周知、確認を行っており、理念に基づいた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流ではないが、移動販売を利用し始めた。	今年度は、コロナ禍の為、地域交流は見合わせているが、真間北部自治会への加入と共に、日頃の散歩時の近隣住民との挨拶や声掛け等を通して、地域とのつながりを大切にしている。週1回、地域の移動販売を利用しており、入居者の楽しみに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過の為ほとんど開催は行えていないが、定期的に資料を配布したり意見をもらっている。	市職員・地域包括支援センター職員・家族等を構成員として、2か月に1回、運営推進会議を開催する予定であったが、今年度はコロナ禍の為、5月・7月は書面での開催、9月・11月は中止、11月は家族のみの参加で会議を開催という状況になっている。また、3月については、これから開催する予定となっている。会議においては、施設の活動報告や意見・情報交換を行っており、施設理解の促進及びサービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行えている	市の担当者とは、業務上の相談・報告等や運営推進会議を通して、日頃から協力体制を構築している。また、地域でのグループホーム連絡会に参加しており、意見や情報交換を行っている。今年度はコロナ禍の為、会議や連絡会は中止になっており、電話やメール、文書でのやり取りを通して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するチェックを定期き実施し、疑わしい件については毎月のミーティングで周知を行っている。	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備すると共に、内部研修を実施する等、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、定期的に身体拘束廃止委員会を開催しており、支援方法を検討する等、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を使用している方がいるため、徐々にではあるが内容を理解してきている。関係性については、定期的な連絡を行い良好である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社としてES、CSアンケートの実施、それをもとに対応を検討している。	面会や電話連絡の際に、家族から意見・要望等を確認している。また、運営推進会議を活用する等、意見・要望等を表せる機会を設けている。挙げた意見や要望等については、会議などで検討し、速やかな対応を心掛けている。その他、手紙や真間新聞で日々の状況を伝える等、信頼関係構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を実施、もしくは話の出来る空間を作っている。	定期的にフロアミーティングを開催し、職員の意見や提案等を確認している。また、管理者や法人職員が個別に意見や思いを確認する機会を設ける等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に役割を持たせ、意識を持ち行動できる取り組みをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修を実施し、社のスキルアップ制度を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行えていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的にあセスメントやモニタリング、担当者会議を行い、プランへの反映を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為全面的に外部との接触を禁止しているため、行えていない。	今年度はコロナ禍の為、馴染みの人や場所等の関係継続の支援については、状況に応じた対応策を講じながら行っている。現在、家族や馴染みの人との面会はリモートで実施し、交流機会の確保に取り組んでいる。馴染みの場所との関係については、ドライブを実施することにより支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介役となって会話をすることをすすんで行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの生活困難になり退去者が出た。退去までの関係性を保ち、送り出すことが出来た。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ている。	入所前に本人及び家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて、医師や他のサービス事業所から情報を収集し、入居者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。入所後も情報把握に努めており、会議等での検討や確認を行う等、現状に即した支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一人一人に対してケアプランの見直しを居室担当者が行っている。それをもとに計画作成はプラン内容の検討をする。	本人や家族の意向を配慮した上で検討会議を行い、介護計画を作成している。また、医師や看護師からの意見確認も行っており、現状に即した支援内容となっている。定期的に目標の達成状況の確認や評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務に追われてしまい、記録がおろそかになっている部分がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部の支援は今のところ使用していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	マッサージなどの支援はコロナ過の為使用中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。	定期的に内科の往診と歯科医による往診が実施されており、入居者の適切な医療支援がなされている。また、希望の医療機関の受診も可能となっており、相互に連携しながら情報共有を図っている。その他、訪問看護を導入しており、健康管理・医療処置・相談等を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を使用し、情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が進んできているため、必要に応じて家族との連絡を密に行い、話し合いをする場を設けている。	終末期・重度化に関する施設方針を契約時に説明し、同意を得ている。必要時に家族・医師・看護師と話し合いを行い、意向に沿った支援に向け体制を整えている。入居者の状態変化に合わせて、その都度家族の意向確認を行い、入居者・家族の安心と納得を得られるよう、対応方法の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を行ってはいないが、その時にどのように対応することが望ましいかを常に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内完結の避難訓練を実施している。地域住民との協力体制は構築できていない。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、年2回、自主消防避難訓練を行っている。訓練では、日中及び夜間想定訓練・通報訓練・消火器訓練等を実施しており、避難や対応方法を身に付けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応が統一できるよう、ケアマニュアルを導入している。	プライバシー保護や接遇に関する研修を実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、研修・会議を通して、周知徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援を心掛け、その人らしい生活の実現に向け、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態に合わせた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選択やカットの希望などを聞き対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態により食べることをあきらめることがないよう、一人一人状態にあった食事形態で対応している。食事は一緒に出来ないが、準備や片付けは一緒に行っている。	食事の準備や片付けは、入居者の希望と能力を活かしながら職員と共同で行っている。食材や献立は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、行事食・特別食・手作りおやつ等の提供も行っており、食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、水分補給方法をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを実施している。状態に合わせて職員の付き添い、介助を行っている。歯科との共有も行い、実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りトイレでの排泄が出来るよう取り組んでいる。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、声掛け・トイレ誘導を行いながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、食事メニューの工夫・水分や乳製品の摂取・体操等を取り入れながら排便を促すと共に、必要に応じて、医師・看護師・薬剤師に相談しながら適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調整や、必要に応じて下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ている。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に調整しながら適切な入浴機会の確保に努めている共に、清拭・シャワー浴・部分浴等も実施しており、入居者の清潔保持に取り組んでいる。他にも、季節の草木や果物を活用する等、入浴がより楽しめるような工夫もしている。	

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠者に対しては医師と相談し、内服の調整を行っている。日中の活動量を増やし夜間入眠できる取り組みをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	徐々に職員が行えるようになってきている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	訪問販売を使用し、好みを物を購入できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行えていない。 外出ではないが、職員のごみ捨てと一緒に行くなどして外に出る機会を設けている。	今年度はコロナ禍の為、外出会や交流活動は見合わせているが、散歩や敷地内の外気浴等の実施により、入居者の気分転換や生活の活性化に繋げている。また、週1回地域の移動販売を利用しており、買い物を通した外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売時、本人へお金を渡し支払う仕組みをとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ラインのリモートを使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を得るため、壁画作りを行っている。	施設内はソファやテーブルを設置し、入居者が落ち着いて過ごせる環境作りがなされている。随所に、入居者の作品・写真の掲示や季節飾りがなされており、温かみのある空間となっている。また、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況にも配慮した造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。		

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを持ち込むことが可能。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活出来るよう配慮されている。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている。		